

# 社会福祉法人けやき福祉会

## 令和 2 年度運営方針

### 1. 法人

#### (1) 統一した文書管理をします

社会福祉法人としてのガバナンスの強化が問われ、それなりの組織体制を整え、管理業務に必要な申請手続き書類の様式の統一を図ってきました。

今年度は、運営上必要な各種規定がいつでも職員がみられるよう、パソコンによる文書管理(docgear)を行っていきたいと思います。そのことによって、各種規定が、働く上において身近なものとなればと考えています。

#### (2) 職員の質を高める研修計画の立案

職員の給与保障をする上において、特別処遇改善手当をつけることができるようになりました。これは、けやき福祉会としては、職員構成の強みともっています。この強みをキャリアパスできる研修計画を立案していきます。

その中に、まずは個人情報保護規定や虐待防止法に基づく職員としてのモラルをしっかり身に着けていただけるような研修計画をこの一年をかけて行っていきます。

#### (3) 輪来工房建設に向けて

生活介護事業所「輪来工房(仮称)」に係る令和 2 年度社会福祉施設等施設整備費補助金申請の結果については、残念ながら採択されませんでしたので、令和 3 年度の同補助金の申請に取り掛かります。

#### (4) 10 か年事業計画の方針の具現化を図ります。

けやき福祉会としての本部機能を充実させることと、借家で行っている「れすぱ」「こんぱす」「けやきの家・アネックス」を合体し多建物の新築に向けて実行いたします。これによって、借家・駐車場代金約 500 万円がかかっていますが、自前で持つことによって減価償却の対象物件となりますが、長い年月でいえば、費用の節減になっていくのではと考えています。これによって、理事会及び評議委員会の場所の確保、法人全体の職員会議、および保護者会の会場としての利用も考えていきます。

## 2. 「けやきの家」運営方針

- ・一人ひとりの内面を見つめ、寄り添う支援
- ・集団活動の中で、“じりつ”を促す実践
- ・地域社会と共に歩む活動

### (1) 取り組み及びスタッフ配置の見直し

支援方針を元に、取り組みにおけるスタッフの配置・利用者さんの取り組みの見直しを行います。スタッフの配置では、偏りをなくしスタッフ全員で、利用者さん全員を理解できるように支援の質を向上していきます。

ただ、正規職員には利用者担当若しくはグループ担当の業務を任せ、人任せにならない育成・リーダー意識を育むことを意識づけるように行っています。

そのうえで、運営規程・利用者さん重要事項説明書・利用者さん契約書の見直しを行い、現状の支援との違いがないように修正・改善を行っていきます。

### (2) 事務関係の業務改善・業務整理の継続

総務・経理・事務の業務についても、管理部の協力を頂きながら改善・整理に努め業務整理を今年度も行っていきます。

### (3) 継続的な人材募集・働き方改革

正規職員の事務時間確保や従業員の休憩問題を改善していくためには、引き続き継続的な人材募集・働き方改革を推進していかなければいけません。また、業務整理に関しては、送迎スタッフ・清掃スタッフをより整備してくることで、業務改善が進むよう、各団体等で開催される人材募集に本部と協力して参加していきます。

### (4) 輪来工房開所にむけて

新事業所開所に向けて、施設整備補助金の整備への書類作成・支援方針を初めてとした支援・取り組みの構築等を本部との協力を得ながら、話し合いを進めていきます。また、建築期間の間の岩船利用者さんの活動場所の模索も検討していきます。

### 3. 共同生活援助事業所「第1けやきホーム」

2020 年度は、安定したホーム開催のためにホーム全体をどのように動かしていくのか？が大事な 1 年になると思っています。そのためにはスタッフの充実が必要となります。

全ホーム平日開催、それに伴うスタッフの充実化を目指し「安心して過ごせるホーム、任せられるホーム」の環境づくりを目指します。

#### (1) 利用者さんのことについてみんなで話しをします。

(ア) 新しいスタッフに対して、事例を元に支援方法を理解してもらいます。

(イ) スタッフ間で個々の利用者の支援事例をもとに、担当ホームでの支援にも生かしてもらおうようにします。

(ウ) 情報交換は、各ホームのケース会議、ホーム担当者会議を利用して話し合います。

#### (2) 全 8 ホームの充実体制

2019 年度にようやく「しらかば」を 4 泊、「なでしこ」を始動することができました。しかし、他ホームと同じように両ホームも 5 日間泊まることができていません。

今年度(2020 年度)は全 8 ホームが月曜から金曜まで泊まれること、そして国から提示されている「夜間支援体制」についての問題を進めていきたいと思えます。

#### (3) 法人全体としてバックアップできる体制

(1)で触れたように、ここ数年のうちにホームの「夜勤」のとらえ方が難しくなります。

そのことにより、今後 8 ホーム全体の安心・安全、そして 365 日に向けてのスタッフの業務対応の改善が求められることとなりますが、ホーム単体で解決できる問題ではないため、法人全体で夜勤をバックアップできる体制を視野に入れ検討・精査していくことを提案していきたいと考えています。

#### (4) 10 か年計画(365 日体制のグループホーム)

数年前から 365 日体制のホームについての企画案を今年度も進めていきます。

親亡き後、親が安心して任すことのできるホーム(体制)作りを考え、更に具体化していきます。

#### 4. 地域生活サポートセンター「れすば」

2020 年度は「安定期」として、「れすば」、昨年度開始した「れすば～紙ふうせん」「れすば～さくら館」が一体となり、「安心して地域で生活ができるように」を基本に高齢の方から学生まで年齢層様々ですが安心安全のために安定した支援を目指すことを行っていきます。

##### (1) 「れすば」として

昨年は、「支援の幅を広げ、外出支援、精神の方の支援など特化した支援について熟せるように」を主に行ってきました。

今年度は今までの支援の在り方を再確認し、収益だけにこだわらず、利用者さん主体の支援ができていのかしっかり見直すことを行い、高齢者にも目を向け幅広く総合的な支援の提供を目指します。

##### (2) 新しい職員が増え、支援の質の見直しに取り組む。

自分(ヘルパー又は親)本位の支援になってないか？利用者さんの意向に合う支援になっているかを確認し、研修はもちろん、どのヘルパーも同じ質の支援ができるよう全体のレベルアップを図ります。

##### (3) 保護者、代理人、後見人の方々とのコミュニケーションを図ります。

2019 年度は「コロナウイルス」の影響で延期となってしまいましたが、2020 年度も引き続き「懇親会」という形で年 1 度開催します。

また、将来的には地域生活サポートセンターとして「れすば」だけの懇親会ではなく、春日井市や、関連する障がい福祉団体とも協力して若い世代の親からたくさんの経験をされた熟年の親御さんと触れ合い意見を聞いたりできる場を作っていきたいと考えています。

##### (4) 「れすば～さくら館」として

###### ① 利用されている子供たちが、楽しく過ごせる場を作ります。

これまで培ってきた日中一時支援で行ってきた活動はそのままに、新たにデイサービスとして取り組む活動を見つけつつ、子供たちが毎日楽しく通えるように笑顔で接することができるよう努めます。

###### ② 安定した運営ができるよう新規利用者の獲得を目指します。

昨年 4 月に日中一時支援として定員 5 名で開所しましたが、令和 2 年 2 月より放課後等デイサービス事業所として移行を行いました。

しかしながら移行後の契約者数が 8 名に留まっていること、また 8 名全員が毎日利用されないため、定員が 10 名に対する充足がされていないので、新規利用者の確保に努めます。

###### ③ 安定した職員配置ができるよう、職員体制を充実します。

昨年は主に居宅介護の職員さんの協力を得ながら、なんとか必要最低限のスタッフの体制を整えることができました。令和 2 年度は、他の事業所で働いていない曜日を中心に「さくら館」で働いてもらえないかアプローチをかけるとともに、大学新卒者向けの求人 NAVI やハローワークをはじめとした求人媒体を活用し、スタッフの安定化を目指します。

## 5. 指定特定相談支援事業所・指定障がい児相談支援事業所「こんぱす」

- (1) 春日井市の計画相談支援義務付けの計画を踏まえ、新規利用者の受け入れ体制を作ります。  
(具体的内容)
  - ・余裕のある月に限り、新規利用者の受け入れを検討します。
  - ・引き続き、相談支援専門員の増員を目指します。
  
- (2) 安定した運営ができるよう収入の確保を目指します。  
(具体的内容)
  - ・体制加算の要件を満たせるよう相談支援専門員は必要な研修を受講します。
  
- (3) 相談支援のスキルアップをします。  
(具体的内容)
  - ・模擬面接研修を行い、面接のスキルを上げていきます。(年2回)
  - ・事例検討会を行い、視点や観点を広げていきます。(年1回)
  - ・虐待防止や個人情報取り扱いについて学習会をします。
  - ・サービス提供事業所の現場研修をします。
  - ・その他外部研修やネットワークに参加し、社会資源の開拓や情報収集に努めていきます。